

愛し子へ

—あの日をほぐす展望台—

場所は海軍壕公園。

今を生きる私たちが出来ることは、
人々が築き上げた平和を自覚し、守ること。

「くぐる」を繰り返し
壕での壮絶な記憶を
昇華する

滑り台の頂上に立ち
幼少期の平穏な記憶を
呼び起こす

戦死者やここを訪れた人々のあの日の記憶をほぐし、
穏やかな気持ちにしてくれる建築物を提案します。

記憶をほぐすために

新鮮な空気を吸うこと

壕の中で過ごした人々、兵士が戦時中に求めたこと。
何よりも生きている実感があったと言います。
思わず深呼吸するような、明るさと軽やかさを。

こどもに戻ることに

小さい頃は誰もが、守られるべき“愛しい子”
であったはず。大人になるとつい忘れてしまいます。
姿勢を低くして、変わらない等身大の気持ちに。

景色を記憶づけること

戦後、那覇のまちは大きく栄えました。
飛行機は人々の幸せのために飛んでいます。
守るべきものの輪郭を、柔らかくはっきりと。

かたちをほぐす

食べ物や子どもの魔除けとして使われる
「サングラー」をモチーフに。
片方の結び目をゆるめ、ほぐします。

あくまでも幾何学形態を使用。曲面でありながら、比較的再現しやすいかたちとなるよう設計しました。

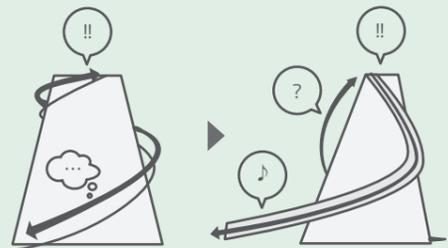
展望機能をほぐす

従来

いい景色を見た後、
行きと同じ道を帰る

この建築では

向かう、景色を見る、帰るまで
一連のストーリーをつくる



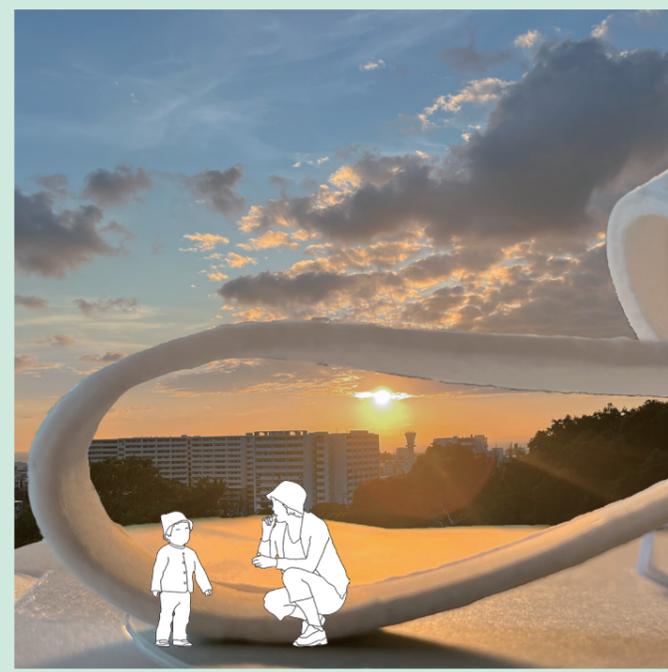
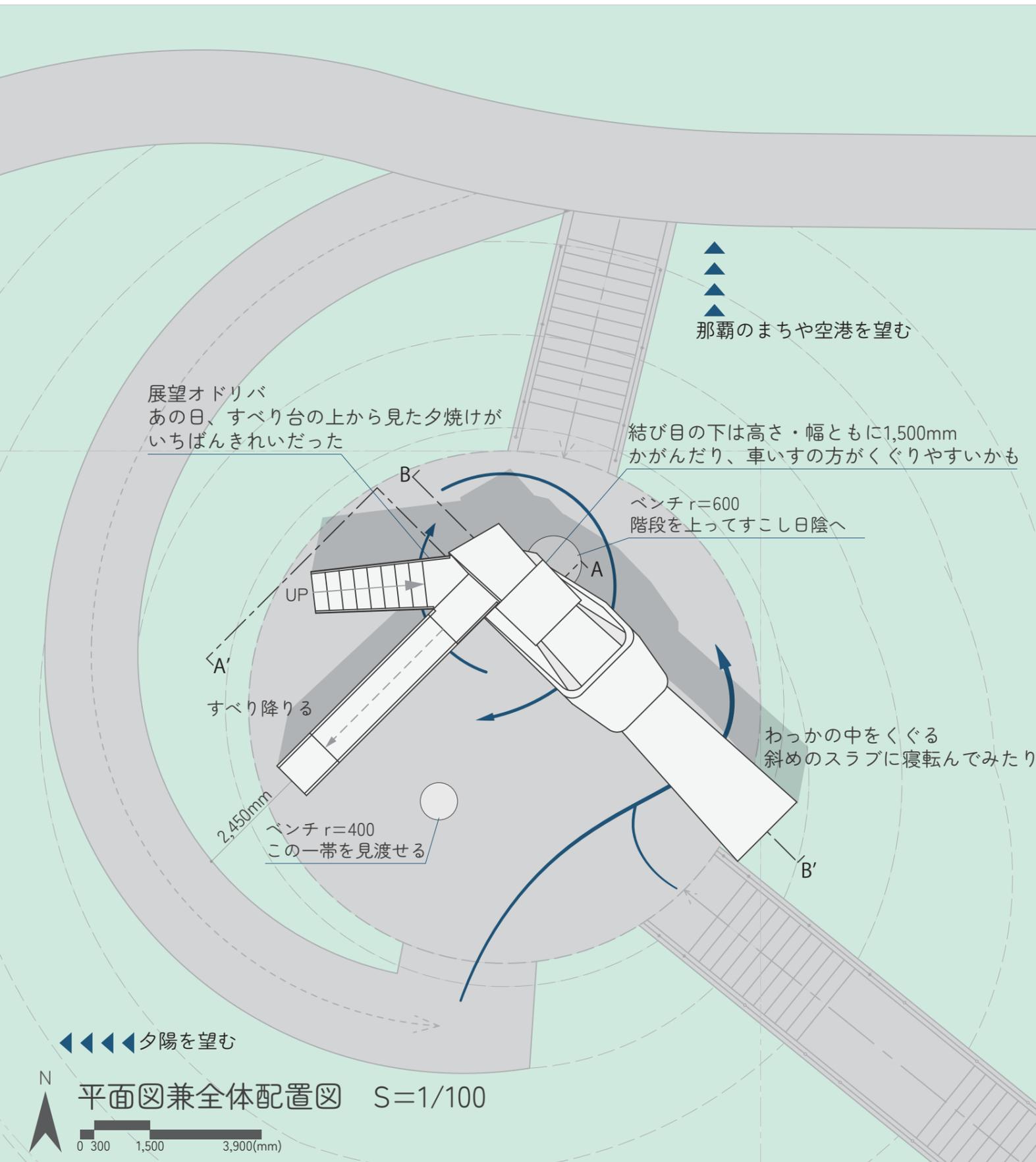
展開図 S=1/100
各点を断面図と照らし合わせながら結びと
模型がつけられます。

断面図 S=1/100

A-A' 断面図

B-B' 断面図

0 300 1,500 3,900(mm)



回遊したり、通り抜けたり、休んだり、どこからでもくぐりぬけられる空間をつくりました。
その先はどこも明るく開けていて、深く息を吸うことができます。
展望機能はすべり台に置き換えました。子どもに戻る行為を経由して、大人も守られる存在に。
栄えたまちの景色と平穏な遊び場の景色を一望できます。
平和を、自分を、自分の大切な人を愛おしく思うための展望台です。